

植田まさたか後援会だより

発行 植田まさたか後援会事務所(まるせんプリント内) 〒636-0306 奈良県磯城郡田原本町西竹田144番地 TEL 0744-32-8118 FAX 0744-33-6077



田原本町議会議員 植田 まさたか

ご挨拶

後援会の皆様にはご清栄のこととお慶び申し上げます。昨年の臨時議会では引き続き議長を拝命し、選挙公約の一つであります議会改革も、議員の方々の協力で一歩ずつ進められているところでございます。

さて、今年は統一地方選挙の年でありますが、近年は地方選挙への関心が薄れつつあり、投票率の低さはその表れとも言われています。また、「投票しても政治は変わらない」と考える住民が増えている証拠もありません。投票率の低さの原因としては、投票に行ったところでメリツとがないというイメージが挙げられます。しかしそれ以上に、地方議会やそれぞれの議員の活動が、一般の住民の目に映りにくい場所で行われており、議会の存在価値、意義、費用対効果などがきちんと認められていない部分も大きいでしょう。そしてそれはまた、住民が議会や議員に費やすお金を無駄だと感じる原因にもなります。住民の意識がお金の使い道ばかりに向けば、とにかく選挙でアピールするために議員定数の削減や議員報酬のダウンといった公約を強調する立候補者が増えることも必然です。ですがそれは結果的に、議会の機能をますます弱体化させる「負の連鎖」を招き、やがては二元代表制への否定につながっていく可能性もあります。

大切なことは、「議会が何をしているのか分からない」という住民の本音を真摯に受け止めて地方議会が行っている活動を進めている改革を可視化し、きちんと住民に理解してもらえ、環境を整えることだと思います。だからこそ私たち田原本町議会も、単なる行政の追認機関でなく、意思決定機関として住民の声をしっかりと行政に反映しつつ、チェック機能としての役割も適切に果たしながら、活動内容や成果を分かりやすく伝える「見える化」を図っていきたくと考えております。もうじき平成が終わる、四月——これが皆様のお手元へ届く頃にはすでに新しい元号も決定していることでしょうか。また、五月一日には皇太子さまが新天皇に即位され、日本は文字通り新しい時代を迎えます。後になって振り返った時、この新しい時代への第一歩を心から誇りに思えるよう、私自身も改めて己の役目を全うしてまいりますので、後援会の皆様には引き続き温かいご支援・ご鞭撻を賜りますようお願いよりしくお願い申し上げます。

今ある "きつかけ" を 未来に変える 政治

一昨年に田原本町議会議員に選任されて以来、重大な責任を担う役目をして色々と仰せつかり、昨年も数多くの発言や勉強をさせて頂きました。そしてそのような役目の一つに「国保病院の監査役」があります。病院の監査は、健全な病院経営が続けられているか実態を監督しながら、町民の健康を支える環境を守っていく重要な役目です。また、そのために私たちは病院の職員の方々と接するだけでなく、実際の患者さんから話を聞くこともあります。私自身、健康管理について意識することはとても大切だと考えていますが、一方で自分が健康でいられることは、周囲からのサポートのおかげと前のように「健康」に過剰しているといついても、それがあつたことを忘れがちになることも事実でしょう。これを書いているおおよそ一ヶ月前、今年二月二日、水泳選手の池江璃花子(いけりか)さんがご自身の白血病について公表されました。白血病は「血液のがん」とも呼ばれ、体内で正常な血液が作られなくなる

病気です。今年、東京五輪まであと一年という注目年。池江さんは金メダルの有力候補ともうたわれた現役トップ選手の一人です。だからこそ、私もまた彼女に感動をもらっていた日本人の一人として、今はまず彼女の一日も早い回復を願うばかりです。ただ、実は私にとって、このタイミングで池江さんの告白は、少なからず特別な意味を持つものでもありました。池江さんの悔しさや葛藤は、私では到底想像することさえできない大きさであり、ましてや私が今すぐ彼女本人のために何かをできることはないでしょう。ですが、私が他の白血病患者や、それ以外に様々な病気や苦しむ人のために何ができるのか、追求していく意義はあるはずでした。私が改めて白血病やその患者、また患者の健康を支える人々について考えたきっかけは、昨年の秋にありました。「骨髓(こつぎ)移植のドナー」に選ばれました。

私の自宅です。話してくれたのは、日頃から家族ぐるみで付き合っている息子の友人です。骨髄は骨の中で血液細胞を作る組織であり、骨髄移植は自分の体内で健康な血を作れない白血病患者のために、提供者(ドナー)の骨から正常な骨髄を採取出して、それを患者へ移植する治療法です。私は正直に言って、驚きました。そして同時に「それは安全なのか」と心配に陥りました。息子の友人はこれまでに献血(けんけつ)やヘアドネーションなど、複数のボランティアに参加して

提供するものには、「骨髓」と「末梢血幹細胞(まっしやうけつかんさいぼう)」の二種類があるそうでした。骨髄移植の場合、採取には全身麻酔下で、ドナーの骨盤にたい注射針を数箇所、数百回も刺す必要があります。一方、末梢血幹細胞の提供では、血液にある「血液の源になる細胞(幹細胞)」を、薬剤によって事前にドナーの血管内で大量増殖させ、それを人工透析のような方法で採取します。骨髄提供の場合、全身麻酔による手術なので、当然ながら術中のリスクや術後の痛みなどがあります。また末梢血幹細胞の場合、採取そのものは両腕に採血用の針を刺して行う献血の延長とも言えますが、事前に薬剤を投与されるため、骨髄提供の時よりも長期間の入院が必要でした。その上、骨髄でも末梢血幹細胞でも同様に、ドナーは本当に白血病患者への提供元として適切なのか、いくつもの検査や担当(コーディネーター)との面談を行い、全てに合格しなければなりません。そしてドナー候補に選ばれてから移植が終了するまで、交通費などを除けば骨髄バンクから謝礼や給料補償が支払われることは全くありません。しかも検査や面談は原則として平日に行われるので、人によっては仕事を休まなければならないこともあります。息子の友人は比較的自由な仕事をしており、それもお金を目的として骨髄バンクへ登録していませんでした。また、手術に伴うリスクについても覚悟していたそうです。ただし、入院探



ドナーにならなくても、体調や生活習慣が原因で検査に合格できないかも知れませんが、仕事を休むとしても会社の都合で認められないこともあるでしょう。自営業であれば休めるかも知れませんが、そのせいで仕事の売り上げを失ってしまうかも知れません。そして何より、移植に伴うリスクを理由に、家族から反対される候補者も少なからずあります。地方自治体によってはドナーへの助成金制度が整えられていないこともあります。しかしその数は少なく、例えば奈良県内では、二〇一九年二月十五日現在で橿原市と天理市の2つのみ。全国で見ても38都府県、437市町村しかドナーへの助成制度を行っていないところはありません。実は、日本の骨髓バンク制度は非常に優秀であり、移植を望む白血病患者と登録者の体質が適合する単純な確率は約100%と、ほぼ全ての患者に対して移植の可能性はあるそうです。

しかし実際に移植まで進めるのは、移植が必要で患者全体の約6〜7割つまり、移植を必要とする年間二千人以上の白血病患者の内、およそ600〜800人の患者がドナー候補が見つかったいるにも関わらず、残念ながら移植を受けられていないということです。当然ですが、移植が成功したらと言って、全ての患者が救われるとは限りません。移植が成功しても5年生存率は約49%程度と、厳しい現実があります。しかし移植は、単に命が救われるかどうか以上に、患者本人や家族にとって最後の最後まで治療を行えたという、心の救いになるそうです。人はいつか必ず死にます。けれど、だからと言ってそれは生きることを諦める理由になりません。仮に五年後の生存率が半分であっても、その五年間にできることは沢山あります。現在の私にはもう、骨髄バンクにドナー登録をする資格がありません。ですが行政に携わる者として、ドナーになりたいという意志を持つ人々を支え、白血病患者を応援することはできるかも知れません。

もちろん、これは白血病に限った話ではありません。私自身もまた、以前からアイバンクへ登録しています。アイバンクは、目の病気によって角膜(かく)がくまぐま移植を必要とする人のために活動している団体であり、私の死後、私の目(角膜)が必要な人へ提供される予定です。そして私がアイバンクへ登録したきっかけは、目の病気になった親戚から、「俺の目はもう役に立たな

います。事実、目先の集めや大衆受けばかりを気にして、肝心の住民の生活や将来を無視した公約を掲げる政治家は少なくありません。ですが、多くの人々が何かに興味を抱くことは、それについてより良い道筋を考える、きっかけにできるはずですよ。例えば、白血病患者の治療に必要なドナーに対して、またはその人が所属する企業などに対して、行政が始められる支援もあるでしょう。アイバンクの登録に関連して、目の健診を気軽に受けやすい環境があれば、登録者が増えるだけでなく、病気の早期発見につながることも期待できます。何より、そのような支援が充実していけば、助かる人が増えて、結果的に家族や友人の人生まで幸せになるかも知れません。そしてその患者や家族、友人は、明日の私や息子であるかも知れないのです。多くの人が興味を抱いている物語について、単なる流行や人気取りの材料で終わらせるのではなく、大切な未来を考える「きっかけ」にする。そしてそのアイデアを一体どうすれば実現していけるのか、具体的な方策について議論していくこと。それこそが、政治家や行政に携わる人々にとって、真に重要な役目ではないでしょうか。

い。お前が代わりにアイバンクへ登録して、誰かの助けになってくれな이라고言われたことでした。どんな物語にも「きつかけ」はあると思います。例えば、骨髄バンクが日本で誕生したきっかけは、有名女優の夏目雅子(なつみ まさこ)さんが白血病で亡くなったことでした。そして今回、日本中で白血病への関心が高まったのは、金メダル候補の池江さんが白血病の発症を告白し、全力で治療へ向かう姿に感動したからです。また、私にたいしては、国保病院の監査役を務めていたことや、息子の友人から相談されたことも、改めて健康や病気について考えるきっかけがありました。しかし、どんなきつかけがあり、どれだけ誰かのために頑張りたいと思っても、適切な環境が保たれていないか、必要なる支援制度が整えられていないか、それは難しいでしょう。昨今、世論や大衆の「機嫌」をうかがって政策や方針を決め、本来に成すべきことをおろそかにしてしまう政治思想「ポリヒューズム」が問題になって



行政報告 平成31年度の主な事業

- ① 幼稚園・小学校・中学校へエアコン設置
- ② 中学校給食運営事業(今年度2学期より各中学校で開始予定)
- ③ 平野認定こども園(今年度4月開園予定)
- ④ 一時預かり(幼稚園型)運営事業 … 幼稚園5園における保育の本格実施
- ⑤ 生涯学習事業 … 吉本新喜劇公演等
- ⑥ 防犯カメラ設置補助事業 … 防犯灯設置補助に加えて防犯カメラ設置にも補助を適用
- ⑦ 災害時情報伝達事業 … 登録者へ防災無線の内容を電話で発信
- ⑧ 清掃工場跡地環境調査委員会事業 … 跡地の地質・土壌・ダイオキシンなどの調査
- ⑨ 道路新設改良事業 … 唐古西代線道路改良整備
- ⑩ 一般下水路事業 … 内水氾濫対策として雨水調整池等を整備
- ⑪ 映画『五代友厚』協賛に伴う田原本町関連情報発信事業 … 映画『五代友厚』の制作にあたり友厚の妻「豊子」の出身地である田原本町をPR
- ⑫ やぶさめ事業 … 町内外の訪問客やインバウンド観光客の誘致のため流馬橋(やぶさめ)を実施予定
- ⑬ プレミアム商品券補助事業 … 住民非課税対象者及び3歳未満の子どもがいる世帯主を対象とした補助事業を商工会に委託
- ⑭ 田原本駅南地区市街地開発補助事業 … 田原本駅南地区市街地開発に伴う補助



植田まさたか後援会からの おしらせ

この後援会だよりは個人情報保護法に基づき収集された情報を用いて配布させて頂いております。万一、登録されている内容お名前、ご住所等)に不備がございましたら、植田まさたか後援会へ「ご一報下さいませ」ようお願い致します。また、皆様の周りで新たに「植田まさたか後援会だより」の配布を希望されている方を「ご存知の際はご紹介下さい。早速お送りさせて頂きます。その他にも何らかの理由で配布停止をご希望される場合や登録情報に変更があった場合等もご連絡頂ければ幸いです。これからますます町政情報を発信して参りますので、どうぞ幅広いご意見・ご感想を頂けますようお願いしております。

ご連絡先 (まるせんプリント内)
電話 〇七四四(三三) 八八一八
FAX 〇七四四(三三) 六〇七七
E-MAIL: m-ueda@munse.com
https://www.uedamasataka-kouenkai.com/